

初心者用日本語指導ボランティア指導教材

平成 2 5 年度文化庁委託事業

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

地域実践プログラム【A】

作成：特定非営利活動法人ももたろう海外友好協会

はじめに

本教材「初心者用日本語指導ボランティア指導教材」は、当協会が平成25年度文化庁委託事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業：地域実践プログラム【A】を受託し、作成をしたものである。

当協会が運営する日本語教室では、常に日本語指導ボランティアが不足している中、ボランティア指導者が興味を持ち日本語教室に参加をしても「教え方がわからない」、「学習者が理解してくれているのか不安だ」などから足が遠のき、日本語教室に参加しなくなった例もあった。

そのような時に「初心者でもすぐに使えるオリジナルな教材などはないだろうか？」と考え、作成したのが本教材である。日本語教室には多様な国籍の、様々な日本語レベルの学習者が参加しているが、この教材は、ある程度、読み、書き、聞くの理解度がある学習者向けではあるが、経験が少ない日本語指導ボランティアにとって一助になればとの思いから作成したものである。

使い方

本教材は、ユニット1～ユニット8で構成しており、それぞれの詳しい使用方法は、各ユニットの冒頭に記しているが、簡単に内容を紹介する。

ユニット1は、ログトム表を使って発音の明瞭度をテストするものである。ログトム表には、初級者用と中・上級者用があるので学習者のレベルにより使い分けをされたい。

ユニット2は、五十音表を使って語彙を増やす練習を増やすものである。「あ」から順番に名詞、動詞、形容詞などを国語辞典などから言葉を探して記入をしていき語彙を増やす目的である。

ユニット3は、「五十音の歌」で日本語のリズム・アクセントを正確に覚えるための教材である。

ユニット4は、作文の課題を集めたものである。問題が理解できて、日本語（ひらがなでも可）で文字が書ける学習者には、積極的に取り組んでもらいたい課題である。

ユニット5は、「ごんぎつね」、「雨にも負けず」を利用したリライト・音読譜による指導の教材である。音読譜は、内容を伝える読み方を指導するためのものだが、この方法は読解の助けにもなると考えている。

ユニット6の「発表会の司会」、ユニット7の「司会者の言葉」は、受講生である外国人が、日本人の前に立ち、日本語で話す練習を意図したものである。

ユニット8は「OK法について」の教材である。OK法は、「聞く→読む→話す→書く」という一連の活動を通じて言葉（日本語）の定着をはかるという指導法である。

目次

ページ

ユニット 1	【ログトム法】・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	教材の使用方法	
	ログトム法による発音・聴取テスト	
	ログトム表（初級）	
	ログトム表（中・上級）	
	聞き取り表	
ユニット 2	【五十音表を使って語彙を増やす】・・・・・・・・	6
	用意するもの・つくる語彙・注意点	
	動詞をかいてみよう	
	名詞をかいてみよう	
	形容詞をかいてみよう	
ユニット 3	【「五十音の歌」で日本語のリズム・アクセントを覚える】・・	10
	指導法	
	五十音の歌（アクセント入り）	
	五十音の歌（チェック表）	
ユニット 4	【作文課題】・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
	記述問題の採点基準	
	作文課題例 1：201●年重大ニュース	
	作文課題例 2：年末年始をどう過ごしたか	
	作文課題例 3：私の生まれ育った町	
	作文課題例 4：ゴールデンウィークをどう過ごしたか	
	作文課題例 5：わたしのふるさとの家への道筋	
	作文課題例 6：私の好きな詩	
ユニット 5	【リライト・音読譜による指導】・・・・・・・・	20
	ごんぎつね（レベル 1）	
	ごんぎつね（レベル 2）	
	ごんぎつね（レベル 3）	
	ごんぎつね（アクセント入り）	
	雨にも負けず（アクセント入り）	
ユニット 6	【発表会の司会】・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
ユニット 7	【司会者の言葉】・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
ユニット 8	【OK法について】・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
	OK法の実施例	
	図形の説明	
	作文課題例	
	図形の証明	

ユニット１：ログトム法

ログトム法というのは、ログトム表を使って発音の明瞭度をテストするものです。ログトム表は、無意味な２音の組み合わせを、相手に伝えてどれほどの聞き間違いがあったかを調べるものです。

日本語を教えるとき、ログトム法は聞く側と話す側の両面が一度に測定できるので、便利な方法といえます。

教材は、初級用と中上級用とを作りました。初級用は、ひらがなの読み書きができれば使えます。中上級用（拗音入り）は、それ以上、日本人にも使えます。

教材の使用法

- 1, まず、記録用紙を配布し、音読する順番を決め、記録用紙に名前を記入させます。
- 2, 順に、ログトム表の一行を（１２音）を音読します。
※ 表を拡大コピーして、一行ずつ短冊のように切ってカードにして渡すとよい。
- 3, 聞き手（音読していない人）は、記録用紙の[]に読む行のアルファベットを記入し、音読の発音を書き取る。音読する本人の欄は空欄になる。
- 4, 全員が終わると、用紙を回収する。
- 5, 採点をする。できれば、一覧表にしたい。すると、個人の傾向がわかる。

一覧表の例

ログトム法による 発音・聴取 テスト（１２の音を、発音・聴取）

※ 点数は、間違えた数

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	聴取点
A		-1	0	0	0	0	0	0	0	0	-1
B	-1		0	0	0	0	0	0	-1	0	-2
C	-1	-1		0	0	-1	0	0	0	0	-3
D	0	-1	0		-1	-2	0	-1	0	0	-5
E	-1	0	0	-1		-1	-1	0	-1	0	-5
F	-1	-1	0	-2	-1		0	0	-1	-1	-7
G	-1	-1	0	-1	-2	-1		0	-1	0	-7
H	-1	-1	0	-1	-1	0	-1		-1	-1	-7
I	-1	-2	0	-3	-1	0	-1	0		-1	-9
J	-1	-1	-1	-2	-1	-1	-2	-1	-1		-11
発音点	-8	-9	-1	-10	-7	-6	-5	-2	-6	-3	-57

表の 説明

Aの人は、聴取は－１でよい。しかし、発音は－８で、多くの人が違った音として聞いている。

Cの人は、聴取－３、発音－１なので、バランスがとれている。

Jの人は、発音はいいが、聴取が良くない。

ロガトム表（初級）

次の表の1行をゆっくり（1音節1秒くらいの速さで）読みなさい。

	1	2	3	4	5	6
A	だーけー	ちーへー	べーぼー	つーじー	しーびー	ぎーすー
B	みーうー	なーじー	ぎーせー	どーにー	べーつー	ぼーずー
C	ぼーじー	すーちー	どーつー	びーぜー	りーざー	がーそー
D	びーほー	じーみー	ぞーすー	どーりー	ぎーつー	しーぼー
E	ぎーへー	じーちー	どーしー	ぼーりー	すーえー	せーつー
F	つーじー	ごーぴー	しーおー	ぞーちー	ぱーびー	だーすー
G	びーわー	ぎーちー	ぞーれー	でーぼー	つーえー	ごーしー
H	ひーぐー	ぎーうー	どーペー	ふーじー	びーりー	つーせー
I	じーおー	ぎーほー	しーつー	どーりー	みーばー	ぴーずー
J	ちーえー	ぴーごー	ぞーしー	どーきー	すーみー	がーつー
K	ごーちー	じーうー	ぎーぴー	つーばー	にーすー	どーはー
L	きーへー	びーしー	にーぶー	ちーみー	つーぼー	ずーれー

ログトム表（中・上級）

次の表の1行をゆっくり（1音節1秒くらいの速さで）読みなさい。

	1	2	3	4	5	6
A	べーぽー	とーびゅー	ちゅーぺー	つーじゃー	しょーばー	ぎーすー
B	みゃーぴー	なーじょー	ぎゅーせー	どーにゃー	じーつー	ぽーずー
C	じょーぷー	すーちゃー	ぽーつー	びゅーぜー	りょーざー	がーそー
D	ぴーちょー	じゅーみー	ぞーすー	どーりょー	ぎゃーつー	しーぽー
E	ぎょーへー	じょーぴー	どーしー	ぽーりゅー	すーちゃー	せーつー
F	つーじょー	ぎょーぴー	しゅーちー	ぞーしょー	ぽーびー	だーすー
G	びょーわー	ぴーちょー	ひゃーれー	でーぼー	つーしゅー	ごーしー
H	ひゅーぐー	ぎゃーしー	どーぺー	ぷーじゅー	びょーりー	つーせー
I	じゃーちー	ぎゅーぽー	しーつー	どーりゃー	みょーばー	ぴーずー
J	ちゃーぐー	ぴーこー	ぞーしゃー	どーきゅー	ぽーみょー	がーつー
K	ごーちょー	じゅーれー	ぎょーぴー	つーぼー	にゃーすー	どーばー
L	しーぴー	きゅーへー	ちーみゃー	じょーれー	ぷーつー	にゃーぶー

聞き取り表

記入者のなまえ ()

1, 読んだ人のなまえ () []

① _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

⑥ _____

2, 読んだ人のなまえ () []

① _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

⑥ _____

3, 読んだ人のなまえ () []

① _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

⑥ _____

4, 読んだ人のなまえ () []

① _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

⑥ _____

5, 読んだ人のなまえ () []

① _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

⑥ _____

6, 読んだ人のなまえ () []

① _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

⑥ _____

ユニット２：五十音表を使って語彙を増やす

用意するもの

- ① 五十音表 ② 「国語辞典」または「日本語＝各国語辞典」

作る語彙

- ① 動詞を作る （アから順に「～る」の形の語を作らせ、辞書で確認させる）

○＋る ○○＋る ○○○＋る

例 ある いる うる うえる うまれる

- ② 名詞を作る （アから順に「～り」の形の語を作らせ、辞書で確認させる）

○＋り ○○＋り ○○○＋り

例 あり あかり あつまり

- ③ 形容詞を作る （アから順に「～い」の形の語を作らせ、辞書で確認させる）

○＋い ○○＋い ○○○＋い

例 いい（よい）あおい いたい うすい えらい おそい

注意点

- 1, 国語辞典が使えることが前提になるが、日中・日韓・日英などの辞書でもよい。
- 2, 辞書にはたくさんの語があるが、日本語能力・使用範囲を考えて取りあげる。
- 3, 日本語の特徴を知らせ、日本語に興味をもたせるのが目的なので、あっさりと。

あ	い	う	え	お
か	き	く	け	こ
さ	し	す	せ	そ
た	ち	つ	て	と
な	に	ぬ	ね	の
は	ひ	ふ	へ	ほ
ま	み	む	め	も
や	い	ゆ	え	よ
ら	り	る	れ	ろ
わ	い	う	え	を

動詞をかいてみよう

名前 ()

(アから順に「～る」の形のことばを作り、辞書でしらべる)

○＋る ○○＋る ○○○＋る

	日 本 語	母 国 語
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
1 0		
1 1		
1 2		
1 3		
1 4		

名詞をかいてみよう

名前()

(アから順に「～り」の形のことばを作り、辞書でしらべる)

○＋り ○○＋り ○○○＋り

	日 本 語	母 国 語
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
1 0		
1 1		
1 2		
1 3		
1 4		

形容詞をかいてみよう

名前 ()

(アから順に「～い」の形のことばを作り、辞書でしらべる)

○+い ○○+い ○○○+い

	日 本 語	母 国 語
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
1 0		
1 1		
1 2		
1 3		
1 4		

ユニット3：「五十音の歌」で日本語のリズム・アクセントを教える

北原白秋の「五十音」の詩は、朗読や演劇の稽古でよく使われる教材です。この詩を音読するためのアクセント表示にしました。アクセント核を太字にしました。日本語学習指導では、アクセントはあまり扱われませんが、アクセントの指導・紹介に利用できます。

指導法

- 1, 日本語のリズムは一拍二音です。「あめ・んぼ・あか・いな…」と2音1拍にとって読ませます。「あめんぼあかいなアイウエオ(トン)」「うきもにこえびもおよいでる(トン)」というふうに、足踏みをしながら音読するとちょうどいいリズムです。
- 2, 「はとぼっぽ」と「らいちょうは」の「ぼっぽ」「ちょうは」は3つの音を1拍にとります。音楽の三連音です。
- 3, 慣れてくると、だんだん速く読めるようになります。♩=160の速度だと一分間で読み終わることができます。(私は、これを目標に指導していました)
- 4, アクセントの練習は、この表を見て、高低の違いがだせばいいという程度です。

五十音 北原白秋
水馬 赤いな アイウエオ
浮藻に 小海老も 泳いでる
柿の木 栗の木 カキクケコ
啄木鳥 こつこつ 枯れけやき
大角豆に 酢をかけ サシスセソ
その魚 浅瀬で 刺しました
立ちましょ 喇叭で タチツテト
トテトテ タッタと 飛び立った
蛞蝓 のろのろ ナニヌネノ
納戸に ぬめって なに粘る
鳩ぽっぽ ほろほろ ハヒフヘホ
日向の お部屋にや 笛を吹く
蝸牛 螺旋巻 マミムメモ
梅の実 落ちても 見もしまい
焼栗 茹で栗 ヤイユエヨ
山田に 灯のつく 宵の家
雷鳥は 寒かろ ラリルレロ
蓮花が 咲いたら 瑠璃の鳥
わいわい わっしょい ワイウエヲ
植木屋 井戸換え お祭だ

注意点

- ①「笛を吹く」の「ふく」は平板と頭高があります。
- ② 表は下が低、中が中、上が高です。「低→中」はほぼ同じ高さで、(半音)ほど
「中→高」は(3音)ほど高く読みます。

五十音のうた（アクセント入り）

メンボ ア	かいな あ	イウ ア エオ	きもに う	えびも こ	よ お いでる
キノ カ	リの き ク	キク き カ ケコ	ツ キ ツキ	こ つこつ	れケ か ヤキ
サゲに サ	す をかけ	シス サ セソ	のうお そ	させで あ	しま さ した
ちま た	しょ ッパで	チツ タ テト	テ ト テ	タ ッタと	びた と った
メク ナ	の ジ ろのろ	ニヌ ナ ネノ	んだに な	め ぬ って	な に ね る
ハ トポッポ	ほ ろほろ	ヒフ ハ ヘホ	あなたの ひ	へやにや お	えを ふ
イマ マ	じ ね まき	ミム マ メモ	メのみ ウ	お ちても	み も
きグリ や	で ゆ グリ	イユ ヤ エヨ	まだに や	ひ の	く いの
イチョウは ラ	むか さ ろ	リル ラ レロ	ンゲが レ	いた さ ら	る りの
ワ イワイ	ワ ッショイ	イウ ワ エヲ	えきや う	どがえ い	まつりだ お

五十音のうた（チェック表）

読んだ人（ ）

チェックした人 []

ア	メンボ	あ	かいな	ア	イウ	エオ	う	きもに	こ	えびも	お	よ	いでる
カ	きの	き	クの	き	カ	キク	ケコ	キ	ツ	ツ	こ	れケ	ヤキ
サ	サゲに	す	をかけ	サ	シス	セソ	そ	のうお	あ	させで	さ	しま	した
タ	ちま	しよ	ラ	ッパで	タ	チツ	テ	ト	タ	ッ	と	びた	った
ナ	メク	の	ろのろ	ナ	ニヌ	ネノ	な	んどに	ぬ	って	な	ね	る
ハ	トポッポ	ほ	ろほろ	ハ	ヒフ	ヘホ	ひ	なたの	お	へやにや	ふ	えを	ふく
マ	イマ	い	ね	まき	マ	ミム	ウ	メのみ	お	ちても	み	まい	
ヤ	きグリ	で	ゆ	グリ	ヤ	イユ	や	まだに	ひ	の	つく	いの	え
ラ	イチョウは	むか	さ	ろ	ラ	リル	レ	ンゲが	いた	ら	る	りの	とり
ワ	イワイ	ワ	ッショイ	ワ	イウ	エヲ	う	えきや	い	どがえ	お	まつりだ	

チェック

記号

- ・ 読み誤り＝○で囲む
- ・ アクセントのあやまり＝vの印
- ・ リズム（拍）のよくないところ＝ ～～～

評価

注意すること

- ☐ A（あやまりなし）
- ☐ B（あやまり 1～5）
- ☐ C（あやまり 6～10）
- ☐ D（あやまり 11以上）

ユニット４：作文課題

授業の終わりに、季節の話題などをテーマに作文を書いてもらう。

1. 作文のテーマ例

- ・自己紹介　・他人紹介　・私の国（町）
- ・ゴールデンウィーク　・母の日　・夏休み（直前）（休暇後）
- ・今年の重大ニュース　・私の年末年始
- ・旅行の思い出　・旅行のすすめ　・趣味（好きな歌・好きなスポーツなど）
- ・料理（好きな料理・苦手の食物）
- ・道筋の説明　・私のふるさとへの行き方

2. 記録用紙

- ① 400字の横書き原稿用紙（30分は必要）
- ② 100字（100マス作文）用紙（5～10分）

3. 書かせるためのくふう

書くべきことのあらましを示す。（いくつかの例を参照してください）

4. 評価は、定期試験の時くらいで、普段は良い点を褒める程度。

記述問題の採点基準（日本語能力試験）

1. 文法的能力（3～0点）

- 3点**：一つ一つ文でも、文章全体でも、書いた人の考えが、はっきり理解できるもの。
（文法・表記に小さな誤りや、文体に少し不自然な点があってもかまわない）
- 2点**：文法・表記で、適切でない点はあるが、文章全体から、書いた人の考えが、はっきり理解できるもの
- 1点**：文法・表記に、間違いがかなりあるが、文章全体から、書いた人の考えを、想像することができるもの
- 0点**：意味がわからない文が多く、文章全体から、書いた人の考えを、理解することができないもの

2. 論理的能力（3～0点）

- 3点**：主張に根拠が示されていて、さらに、主張と根拠との間に十分な論理的関係があり、矛盾が認められないもの
- 2点**：主張に根拠が示されていて、だいたい論理的な関係は認められるが、一部に、論理的な矛盾や、はっきりしない点があるもの
- 1点**：主張は示されているが、その根拠が示されていない、または、根拠が示されていても、論理性・客観性がないもの
- 0点**：書いた人の考えが入っていない、または、何を主張しているのかわからない

作文課題例 1 : 201●年 重大ニュース

名前 ()

1, あなたの印象に残っている今年の社会の出来事を、大きい順に5つ書きなさい。

① _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

2, あなた自身の今年の出来事を、大きい順に5つ書き、簡単に説明しなさい。

① 「 _____ 」

② 「 _____ 」

③ 「 _____ 」

④ 「 _____ 」

⑤ 「 _____ 」

作文課題例 2：年末・年始をどう過ごしたか

名前（ ）

課題 次のような点に留意して、400 字程度の作文を書きなさい。

1， 記録

12／29

12／30

12／31

1／1

1／2

1／3

2， 去年はどうすごしたか

3， 今年の予定と実際（休み前に考えていたことと実際は？）

① 予定

② 実際

4， 反省・感想

5， 来年はどう過ごしたいか

作文課題例 3：私の生まれ育った町

名前()

1, テーマ (主題) 私の生まれ育った町 (都市)

2, 書くこと 私の町の紹介

3, 取材 (それぞれの質問に答えなさい)

1. 何という町ですか。あなたの家はその町のどこにありますか。
2. あなたの家のまわりは、どんなようすですか。にぎやかですか。
3. アパートや家は多いですか。あなたの家のまわりには、どんな人が住んでいますか。
4. 店は多いですか。どんな店がありますか。そのほかにどんな建て物がありますか。
5. あなたの町では、どんなものが有名ですか。公園や観光地がありますか。
6. あなたの町のどんな点が好きですか、きれいですか。

4, 構想 (文章の組み立て)

① 書き出し (序論)

② 中心部分 (本論)

③ まとめ (結論)

作文課題例 4 : ゴールデンウィークをどう過ごしたか

名前 ()

1, テーマ (主題)

ゴールデンウィークをどう過ごしたか

2, 書きたいこと

休みの期間中、印象に残った出来事

3, 取材 (それぞれの日に何をしましたか)

4/29 _____

4/30 _____

5/1 _____

5/2 _____

5/3 _____

5/4 _____

5/5 _____

5/6 _____

4, 構想 (文章の組み立て)

① 書き出し (序論)

② 中心部分 (本論)

④ まとめ (結論)

作文課題例 5：わたしのふるさとの家への道筋

名前（ ）

1，挨拶・自己紹介

みなさん、こんにちは。私は〔 〕です。
これから、私のふるさとの家へ行く道筋を、お話しします。

2，住所

私の家は（ ）に
あります。

3，家へ行く交通手段と乗り降りする空港・駅など。（概要）

日本の（ ）空港から、飛行機で（ ）空港に行きます。
そこから、

4，基点となる駅などからの交通手段と付近の地図

例（〇〇駅で下車します。私の家は、この駅の東Xキロの所です。まず、△△行きのバスに乗り、□□停留所で降りてください。そこからは、歩いて〇〇分くらいです。地図をかいて説明します。）

作文課題例 6：私の好きな詩（歌のことば）

名前（ ）

1， あなたの国の好きな詩を思い出して書きなさい。（一部でもよい、母語で書くこと）

2， なぜ好きになったのか、日本語で書きなさい。

3， その詩の作者・時代・内容などを日本語で説明しなさい。（歌の場合は作曲者・歌手名なども）

ユニット5：リライト・音読譜による指導

リライト教材は、『リライト教材』（ふくろう出版）の編著者である光元聰江、音読譜は岡本淑明の命名・開発したものです。リライト教材とは、テキストの本文を分かりやすい表現に書き換えた教材をいいます。音読譜とは、日本語の文章を音読しやすくするために、音調を視覚的に書き表したものをいいます。リライト教材作成にあたり大切にすることは、「表現はやさしく、内容は相当学年レベルで」と言うことです。

学習者に読ませたい文章があれば、その人の日本語能力に応じたリライト教材をつくればいいのです。新聞のニュース、役所の広報、家電製品のマニュアル、料理のレシピなどリライトの対象になるものはたくさんあります。そして、それを音読譜にすると、生きた日本語のテキストになります。

リライト・音読譜の例

新美南吉作「ごんぎつね」

レベル 1

レベル 2

レベル 3

音読譜

音読譜はたくさん作りましたが、著作権の関係で、新美南吉の「ごんぎつね」と宮澤賢治の「雨にもまけず」を紹介します。

また、音読譜にはアクセント記号をつけました。標準日本語では1音目から2音目へ進むとき、必ず音の高さが変化します。太字のところが「アクセント核」のあるところです。ですから、単語の場合はその「核」の音のところまで高い音が続くということです。アクセント核のない語は「平板」型のアクセントだということです。

音読譜は、内容を伝える読み方を指導するためのものですが、この方法は読解のたすけにもなります。日本の小中学校では、国語の授業の大部分は読解の学習です。児童生徒に音読譜を作らせることで、読解の学習効果をあげたという例もあります。

日本語能力が少し上達したら、パソコンで音読譜を作ること始めるとよいと思います。

音読譜例（縦書き）

ごんぎつね

雨にもまけず

ごんぎつね（レベル1）

むかし、

山に、

きつねが いました。

なまえは、「ごん」です。

ごんは、

ひとりぼっちでした。

ごんは、

夜も 昼も いたずらを しました。

ごんは、

川へ 行きました。

兵十は、

うなぎを びくに いれました。

ごんは、

うなぎを くわえました。

うなぎは

くびから はなれません。

ごんは

そのままにげました。

ごんぎつね（レベル2）

むかし、

山に、

きつねが いました。

なまえは、「ごん」です。

ごんは、

あなの 中に すんで いました。

ごんは、

ひとりぼっちでした。

ごんは

夜も 昼も

いたずらを しました。

秋、

雨が ふりました。

雨は、

二、三日 つづきました。

ごんは、

ずっと

あなに いました。

雨が やみました。

ごんは、

ほっと しました。

ごんは、

あなから 出ました。

空は、

はれて いました。

鳥が 鳴いて いました。

ごんは、

川へ 行きました。

川の 水が

ふえて いました。

川の 中に、

人が いました。

ごんは、

「兵十だな。」と、

思いました。

ごんぎつね（レベル3）

これは、

おかしの お話です。

村から はなれた山の中に

きつねが 住んでいました。

名前は、「ごん」 です。

ごんは、

ひとりぼっちの 小ぎつねです。

ごんは、

森の中に

あなを ほって

住んでいました。

夜も 昼も

村へ 行って、

いたずらを しました。

畑の いもを ほったり、

葉っぱに 火を つけたり、

とうがらしを とったり

しました。

ある秋のことでした。

二、三日

雨が 降りました。

ごんは、

外へ 出られませんでした。

ごんは、

あなに しゃがんで いました。

雨が やみました。

ごんは、

ほっとして

あなから はい出ました。

空は、

暗れて、

鳥が 鳴いていました。

ごんは、

村の小川へ 行きました。

川の水が

どっと ふえていました。

ごんは、

川下の方へ 行きました。

これは、

わたしが 小さい ときに、

村（むら）の 茂平という おじいさんから 聞いた お話です。

昔は、

わたしたちの 村（むら）の近（ちか）くの

中山という所（ところ）に、

小さな おしろが あって、

中山様（なかやまさま）という

おとの様が おられたそうです。

その中山から

少（すこ）し はなれた 山の中（なか）に、

「ごんぎつね」という きつねが いました。

ごんは、

ひとりぼっちの 小ぎつねで、

しだの いっぱいしげった 森の中（なか）に、

あなをほって 住んでいました。

そして、

夜（よる）でも 昼（ひる）でも、

辺（あた）りの村へ 出てきて、

いたずらばかりしました。

畑（はたけ）へ 入（はい）って いもを ほり散らしたり、

菜種がらの ほしてあるのへ 火を つけたり、

百姓家（ひゃくしょうや）の うら手に つるしてある

とんがらし（とうがらし）を むしり取っていたり、

いろんなことをしました。

ある 秋（あき）のことでした。

二、三日（にさんにち）

雨（あめ）が ふり続（つづ）いた その間（あいだ）、

ごんは、

外（そと）へも 出られなくて、

あなの中（なか）に しゃがんでいました。

雨(あめ)にも 負けず (アクセント入り音読譜)

宮沢 賢治(みやざわ けんじ)

雨(あめ)にも 負けず

風(かぜ)にも 負けず

雪(ゆき)にも

夏(なつ)の暑(あつ)さにも 負けぬ

丈夫(じょうぶ)な体(からだ)を 持ち

欲(よく)は なく

決(けつ)して 瞋(いか)らず

いつも

静(しず)かに 笑(わら)っている

一日(いちにち)に

玄米(げんまい)四合(よんごう)と

味噌(みそ)と

少(すこ)しの 野菜(やさい)を 食べ

あらゆる事(こと)を

自分(じぶん)を 勘定(かんじょう)に入れずに

良く 見聞(みき)きし

判(わか)り

そして 忘(わす)れず

野原(のほら)の

松(まつ)の林(はやし)の陰(かげ)の

小(ちい)さな

萱(かや)ぶきの小屋(こや)に 居て

東(ひがし)に

病氣(びょうき)の子供(こども) あれば

行つて

看病(かんびょう)してやり

西(にし)に

疲(つか)れた母(はは) あれば

行つて

その稻(いね)の束(たば)を 負い

南(みなみ)に

死(し)にそうな人(ひと) あれば

行つて

恐(こわ)がらなくてもいいと 言い

北(きた)に

喧嘩(けんか)や 訴訟(そしょう)が あれば

つまらないから やめろと 言い

日照(ひで)りの時(とき)は

涙(なみだ)を 流(なが)し

寒(さむ)さの夏(なつ)は

オロオロ 歩(ある)き

みんなに

デクノボウと 呼ばれ

褒められもせず

苦にもされず

そういう者(もの)に

私(わたし)は になりたい

(田代式アクセント表記)

ユニット6：発表会の司会

1 開会（司会者は中央）

司会：皆さんこんにちは、（司会の〔 〕）です。よろしくお願いいたしますします。）

（季節のことばなど）

例1「12月に入ってずっと寒いが続いていますが、皆様、お元気でお過ごしでしょうか・・・。

さて、私どもは、四月から、日本語の勉強をしてきました。そして、今日は、その学習の成果を、発表いたします。練習不足のところもありますが、一生懸命がんばります。どうぞ、最後まで、聞いてください。

2 挨拶（あいさつ）

司会：発表に先立ちまして、この企画をたてました（ ）のご挨拶です。では、お願いします。（拍手）〔挨拶〕（拍手）

司会：ありがとうございました。

3 発表

司会：（司会者はわきによる）では、これより、発表に入ります。

(1)最初の方は、（国名）〔 〕の（名前）〔 〕さんです。
テーマは「 』です。〔発表〕

(2)次の方は、（国名）〔 〕の（名前）〔 〕さんです。
テーマは「 』です。〔発表〕

・・・以下同じ・・・

（ ）最後の方は、（国名）〔 〕の（名前）〔 〕さんです。
テーマは「 』です。〔発表〕

4 感想発表

司会：発表は以上ですが、ここで（ ）先生に、ご感想（ご講評）を話していただきたいと思います。（拍手）・・・では、先生、お願いします。

「感想発表」

司会：ありがとうございました。

5 終わりの言葉

司会：以上で、今日の発表会をおわります。ご静聴ありがとうございました。

名前 ()

① テーマ (季節の話題・ニュース・学内の出来事・自分の経験・その他)

② 話す順序

③ 予想される聴衆の反応

⑤ 注意すること

⑥ 話す言葉の原稿

Figure 1 displays a series of 10 horizontal panels, each representing a concentration field at a specific time step. The panels are labeled with time values: 0, 20, 40, 60, 80, 100, 120, 140, 160, 180, and 200. The concentration field is shown as a series of vertical lines, where the height of each line represents the concentration at that position. The panels illustrate the evolution of the concentration field over time, showing a central peak that diffuses and spreads as time progresses.

ユニット 1 4 : OK 法について

OK 法は、「聞く→読む→話す→書く」という一連の活動を通じて言葉（日本語）の定着をはかるという指導法です。実行にあたっては、短い例文を用意し、それを、読み聞かせることから始めます。進め方は以下のようです。

- ① **聞かせる**（指導者が、例文を、話すように読んで聞かせる）
- ② **聞いたことのあらすじを言わせる**（聞いたことについて話し合う）
- ③ **読ませる**（板書またはプロジェクターによる提示）
- ④ **提示された例文を見て書き取らせる→書き終わると例文を撤去（消去）する**
（この段階は、時間の関係で省いてもよい。書写する紙は白紙でも罫線のあるもので もよいが、初級や子供の場合は罫線がある方が書きやすい）
- ⑤ **例文を話させる**（あらすじではなく、例文のとおりを話させる）
- ⑥ **書かせる**（文のはじめの 1 文節を示して、続きを書かせるようにすると抵抗なく書けるようである）
- ⑦ **次時のはじめに、もう一度書かせる**
（これは、例文の定着をはかるためで、省略してもよい）

OK メソッドの例文の作り方（3 3 / 4 4 / 5 5 ～方式のリライト文）

- 1, 入門（3・3 方式）3 文節文を 3 文、4 級の語彙
- 2, 初級（4・4 方式）4 文節文を 4 文、3 級の語彙
- 3, 初中級（5・5 方式）5 文節文を 5 文、3 級の語彙
- 4, 中級（6・6 方式）6 文節文を 6 文、2 級の語彙
- 5, 中上級（7・7 方式）7 文節文を 7 文、1 級の語彙

※ 文節数は、目安として決めたもので、数にこだわる必要はありません。また、漢字はあまり 重視しないほうがいいです。極端に言えば、ローマ字表記でもかまわないくらい。

OK 法の実施例

1, 入門（3・3 方式）の例

自己紹介

わたしの なまえは ○○です。
わたしは ○○国から きました。
どうぞ よろしく おねがいします。

2, 初級（4・4 方式）の例

自己紹介

わたしの なまえは ○○○です。（フルネームで）
「○○」と 呼んで ください。
わたしは ○○国の ○○から きました。
みなさんと なかよく 勉強したいと 思っています。

3, 初級（4・4 方式）

地 震

大きい地震のとき、あなたは どうしますか。
教室に いたら、机の下に 入ってください。
自分の部屋に いたら、まず 火を消しましょう。
ビルの中に いたら、エレベーターは 使わないでください。
大切な ことは 慌てない ことです。

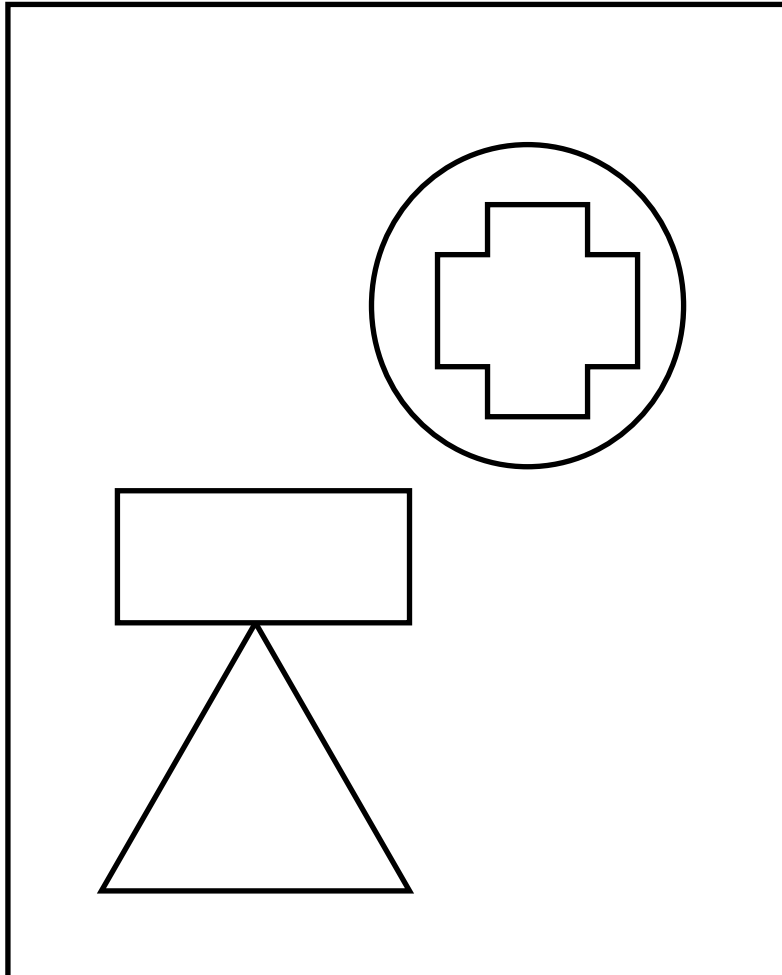
4, 初中級（5・5 方式）

コンビニ

日本には、どこの町にも 必ず コンビニが あります。
多くの コンビニは 24 時間 店を 開けています。
コンビニには 弁当や お茶などの 食料品を おいています。
また、雑誌や 化粧品まで そろっていて 便利です。
コピー機や ATM もあって 小さな スーパーマーケットの ようです。

※ 著作権の関係で、たくさんの例文を紹介することができませんが、この学習指導は、著作権に関係なく教室で指導できます。学習させるのによい文章が見つかれば、そのまま、またはリライトしてお使いになればいいと思います。

問題：次の図は、はがきの大きさの紙にかいた図形です。この図を見ることのできない人に、これと同じ図をかいてもらうために説明することばを書きなさい。



参考

図には、円形（丸）と十字形と六角形と三角形があります。

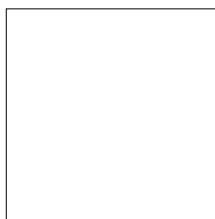
説明することば

作文

(※ 説明の部分をカットして使う)

課題：2倍の面積の正方形を、簡単に描く方法を示し、それが2倍であることを証明する。

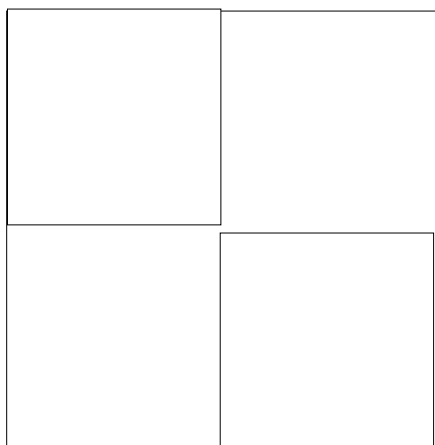
1,



ここに、縦10センチ横10センチの正方形があります。この正方形の面積は100平方センチです。

今日の問題は、この正方形の2倍の面積、つまり200平方センチの正方形を作りたいのです。

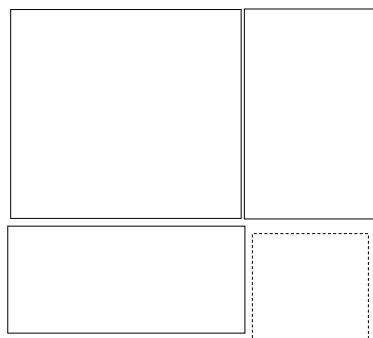
2,



そんなの簡単だと思うでしょう。縦と横の長さを2倍いにすればいい。

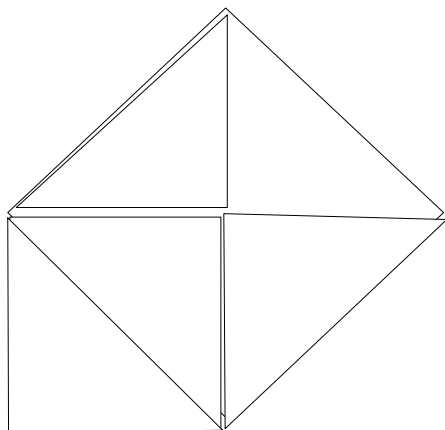
そうすると、左の図のように4倍になってしまいます。

3,



では、半分ずつ15センチの正方形を作ればいい、ということで作ると、少し大きすぎます。

4,



では、お知らせしましょう。

正方形の対角線（斜めの線）を1辺にして、正方形を作ると2倍の面積の正方形ができます。

2倍であることの証明は、三角形の数です。

もとの正方形は三角形が2つです。

新しくできた正方形には4つあります。